日本照明工業会　秋季懇親会を開催

CSL、HCLへの取り組み強化へ

あいさつする平岡会長

秋季懇親会

日本照明工業会（平岡敏行会長・JLMA）は10日、東京・元赤坂の明治記念館で秋季懇親会を開催した。

懇親会に先立ち、「人生100年時代に向けた貯筋のススメ～ロコピョンとロコモ体操～」と題した講演会が行われ、女優でタレントのいとうまい子氏を講師に迎えた。芸能界デビューから現在に至るまでの経緯やロコモティブシンドローム（運動器症候群）の説明とロコモ体操による予防などを紹介したが、身近な問題ということで熱心に聞き入る聴講者が目立った。

来賓あいさつする菊川経産省課長

乾杯の音頭をとる丸山筆頭副会長

講師のいとうまい子氏

懇親会では、平岡会長が「当工業会では、2030年までに、日本の照明のストック市場のSSL化を何としても100%にもっていく取り組みをしている。今年度は破格の予算をとって、現在キャンペーンを進めているところだ。工業会の活動についてもご協力をお願いしたい。照明工業会の上期の出荷統計としては、前年同期比100%を超えるかどうかというところだ。LEDが大きく伸びていた時代とは変わってきており、リニューアルキャンペーンと合わせて、業界としてCSL、HCLへの取り組みを強化して、照明の価値を高めていきたい」とあいさつした。

続いて、経済産業省の菊川人吾情報産業課長が来賓を代表してあいさつし、丸山英治筆頭副会長の音頭で乾杯し、祝宴に入った。

全照連　2019年度第2回役員会

「共存共栄という思い」を大切に

役員会

増山会長

全国照明器具協同組合連合会（増山晃章会長）は10日、東京・元赤坂の明治記念館で「2019年度第2回役員会」を開催した。

冒頭、増山会長は「先日、薮中三十二元外務事務次官の話を聞く機会があった。日本には共存共栄という言葉があるが、いま、それが世界から失われている。米中のリーダーの発言を見ると、自分たちが良ければいいという傾向になっている。このままでは地球がバラバラになってしまうという話をしていた」と述べたうえで、「ひるがえって、私どもの業界をみると国内に電気の業界はたくさんあるが照明の業界ほどまとまっている業界はないと思う。他の業界の方から話を聞くとバラバラだと聞く。それぞれが我関せずの商売をしている。そうなると、結局は誰も得をしない結果になってしまう」と結束を呼びかけ、「共存共栄という思いを大切にして全照連を続けたい。今年度より会長を務めさせていただいているが今後ともご支援、ご協力をお願いしたい」と訴えた。

続いて、「あかりの日の活動」「第28回全照連青年部合同研修会の報告」「全照連ニュース新年特集号の発行」「2019年度上半期の収支」「全照連福祉共済制度グループ保険」等について討議した。

あかりの日の活動については、従来の「あかりは地球の未来も照らしています」ののぼりに加えて、新たに「照明器具カラー印刷されたのぼりを作成。新しいのぼりを立ててLEDライト付ボールペン3万4千本および日本照明工業会の「住まいの照明省エネBOOK」800冊を中部、関東、関西で配布することを確認した。

第28回全照連青年部合同研修会の報告では、4日に山梨にあるファナック本社工場の見学会を開催。

翌5日はゴルフ組と観光組に分かれて行動し、観光組は武田神社やシャトー勝沼、ぶどうの丘バーベキューガーデンや山梨県立リニア見学センターを回るなど親睦をはかったと報告した。

大光電機　第13回建築家のあかりコンペ2019　2次審査

最優秀賞に井上久実氏（井上久実設計室）

大光電機と日本建築家協会が主催する「第13回建築家のあかりコンペ2019」の2次審査が17日、青森県弘前市の弘前文化センターで開催された。

今回は「人に優しいランドスケープのあかり」を作品テーマに募集し、国内から93作品、海外から4作品の計97作品の応募があった。1次審査で選出された7作品が公開審査に進んだ。

公開審査では、日本建築家協会の大成優子あかりコンペ主査が「13回目の今回は海外からの応募もあった。97の応募作品のなかから選ばれた7作品、7組の皆様の発表を楽しみにしている」と開会あいさつ。

続いて、7作品の作者が順次登壇し、1次審査ではイメージ段階だった作品を模型化したモックアップを披露。創作背景や製品化に向けたアイデアをプレゼンテーションした。

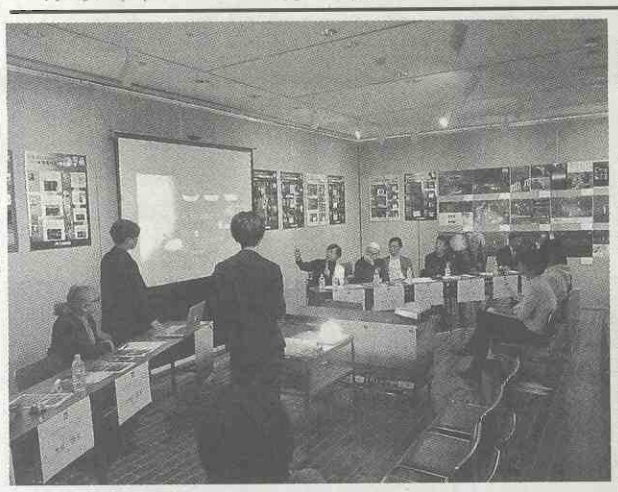
プレゼンテーションを受けて、長谷川逸子審査委員長（建築家）や大光電機の前芝辰二社長をはじめとする審査員が、実用段階での課題等に関して質問し、作者は実現性の高さや利用効果などを熱心に説明した。

審査を経て最優秀賞、優秀賞、佳作賞、DAIKO賞が選定され、最優秀賞には井上久実氏の「anklet（アンクレット）」が選ばれた。

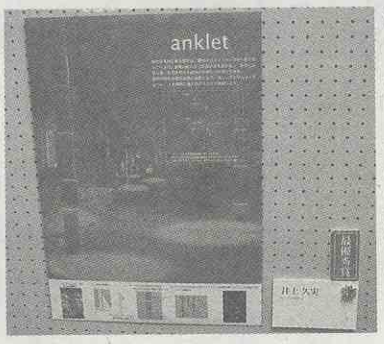
最優秀賞を受賞した井上氏は「ここ数年応募してきたが毎回私の作品が選ばれなかった。選ばれた作品と似ているのになぜなのかという気持ちをずっと持っていたがそれではだめだと発起し、人が考えない案を導き出そうと考え電柱を思いついた。電柱をどのように評価されるのか不安もあったが、電柱自体を照らさないように注力した。それとともに、電柱は連続するものなので美しい景色が見いだせないものかと取り組んだ」とこれまでの歩みを振り返った。

「anklet」は足首飾りを意味するが、作品は電柱にベルト状のリングの照明を装着し足元を照らす。昼間は無骨な電柱が夜はあかりの「anklet」に変わり、帰宅時には人を導く光のリングが連なる風景が浮かび上がる。

今回の公開審査について前芝社長は「夢のある楽しい作品ばかりだった。商品化はむずかしいこともあるがアイデアは非常に参考になった。私どもも柔軟な発想で新しい商品づくりに取組みたい」と締めくくった。


あかりコンペ公開審査

モックアップ



anklet（アンクレット）

井上氏と前芝社長

受賞者と審査委員

□長谷川審査委員長講評（要旨）

ランドスケープの照明はこれから発展しなくてはいけない。太陽電池も使い自然エネルギーで環境をつくることは世界の建築家の大きなテーマである。

夜の都市は観光客が来る時代は大事なものになっている。いままで建築家には建築しか依頼がなく、ランドスケープはその分野の人が担っていたが、建築と一体となって担う時代を迎えている。

優しいランドスケープを積極的に建築家が提案することで都市と環境が変わることを期待してコンペのテーマを考えたが、電柱のような照明を林立させないで今回の作品のような私たちの生活と動きの中にある照明を皆様にこれからも考えていただきたい。

長谷川審査委員長

□審査結果

〈最優秀賞〉

「anklet（アンクレット）」井上久実氏（井上久実設計室）

〈優秀賞〉

「Wind:Light」松下直樹氏（豊橋技術科学大学院）

〈佳作〉

「grass light（グラスライト）」加藤隆司氏（atelier RISE）

「Soft Seeds―やわらかなタネ―」濱本真之氏（オンデザイン パートナーズ）、川合豊氏（上海COLORFULLDESIGN）

「ふるまうひかり」太田翔氏、武井良祐氏（OSTR）

「浮水光（ふすいこう）」岡田有祐氏（久米設計）

〈佳作・DAIKO賞〉

「夜露朝霧」FUNG Yuen Man Azalea氏（千葉学建築計画事務所）

□審査員

長谷川逸子氏（審査委員長・建築家）、中村拓志氏（建築家）、大草徹也氏（建築家）、小坂竜氏（クリエイティブディレクター）、武石正宣氏（ライティングディレクター）、前芝辰二氏（大光電機社長）